

小教区評議会役員交流会報告

- テーマ： サイクルテーマ③「社会への福音宣教」
「滞日外国人から学ぶ」
- 対象： ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者、小教区評議会役員
- 導入： オチャンテ・村井・ロサ・メルセデス氏
(上野教会役員・桃山学院教育大学教育学部准教授)
- 日時： 2023年10月7日(土) 14:00~16:00
- 開催方法： ZOOM ミーティング
- 参加人数： 42名(信徒36名、司祭・司牧者6名、7名) 28教会 端末数36
- 内容： 司教講話「シノドスのまとめを受けて」 福音宣教企画室担当司祭メッセージ
信徒の分かち合い ブレイクアウトルームでの分かち合い

分かち合いの導入：オチャンテ・村井・ロサ・メルセデス氏(上野教会役員・桃山学院教育大学教育学部准教授)が、滞日外国人信徒の現状、彼らが日本社会の中でアイデンティティを確認する手段として母国のまつりを大切にしていること、社会への福音宣教のヒントとして、使徒言行録2章42節~46節を引用し、彼らが「皆一つになって…心を一つにして…喜びと真心をもって一緒に食事」をしている姿を紹介した。また、日本の教会のよいところは、共同体への所属意識、「私の教会、私のブロック」という意識が高いところだと述べた。

小グループの分かち合い：「移住者との交流から学んだこと」、「コロナで失った3年を取り戻すために今、できること」、「日本で育った移民第2世代の子供たちの信仰教育」をテーマに約1時間、熱意のこもった分かち合いが行なわれた。

大塚司教コメント：小教区によっては外国籍信徒の代表としての役員が居なければ、意見の集約が難しくなっている。日本人役員の想像や憶測だけで教会の活動を進めるのではなく、当事者や、言葉の関係で直接意見を聴けないグループの現状や思い、望みを汲み取り、何かを『してあげる』のではなく、一緒に何ができるのかを考えてほしい。言語、文化を越えて共通の信仰があり、それを確かめ合うことはユニバーサルなカトリック的体験であり、これが普遍教会であると思う。目に見えて点在する教会が、目に見えない普遍教会の具現化である。グローバルな移民の時のしるしの中で今、そこに派遣され出会う、コロナ禍を体験した私たちは、新しい歩みの中で社会への福音宣教に取り組んでいるのだ。

福音宣教企画室振り返り：今回の交流会では、春の司牧者による座談会に引き続いて、同テーマで信徒の視点からオチャンテさんにお話しいただいた。滞日外国人信徒たちが日本で母国の祭りを再現することの意義、信仰者同士の交わり、子どもたちへの信仰教育の取り組みの様子が語られ、彼らの信仰表現への理解を深めると同時に、活気ある教会の姿に希望を感じた人も多かったのではないかと。わかちあいは「滞日外国人との交流」「交流」をテーマにし、外国人信徒がほとんどいない小教区役員も自分のこととして考え、分かち合う機会とした。交流会で得た学びや気づきが、小教区における滞日外国人信徒と日本人信徒、また他者との交流に一步踏み出す力となることを期待する。

以上